

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



12月にGEN自然と親しむ会の恒例となった『無煙炭化器で炭焼きを作ろう』をおこなった

Contents

- 第5回運営懇談会をおこないました P 2
- アンズ栽培で村が豊かに P 4
- 報告書『中国黄土高原における草の根環境協力22年の歩み』作成 P 5
- 2014黄土高原ワーキングツアーのご案内 P 5

2014.1

155

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



報告

マツの成長がたのしみ 森林ボランティア in 箱石

太田 房子 (GEN 会員)

11月9日、丹後半島箱石浜で「森林ボランティア in 箱石」の作業がありました。GENからは5名が参加しました。参加者数は65名ほどのこと。集合時間には近隣の企業、団体等のグループが刈払機、カマ、草抜道具を手に集まってきました。若い人が多いです。今回は太平洋側からしかも年齢が高いのはGENだけ？

毎回 GEN 顧問の小川真さん、樹木医の伊藤武さん、キノコの専門家の栗栖敏浩さんが指導にあたっています。

3年かけて苗木の植林が終わり、4年目の今年からは草刈り、間引き、補植の作業に入っています。私は最初に植えた4年目の苗の間の草抜きをしました。昨年11月以来の参加ですが、マツが大きく育っているのにびっくり。びっしりと密植されている樹間にはあまり草ははえていませんが、できるだけいねいに抜き取っていきました。ところどころでまん丸いショウロが顔をだしています。

このマツがだいぶ繁ってきたので、伊藤さんの指揮で栗栖さんが間引きをはじめました。おしげもなくドンドン切っていきます。しろうとでは、こんなに思いきりよく切れないのではないかと感心しました。午前中の短い時間でしたが仕事ははかどり、次は来年です。私たちは箱石地区の民宿砂丘荘に前泊して、地域のお話を伺いました。農

業が主でかたわら民宿もやっています。サツマイモ、メロン、ナシ等を砂地に栽培しています。海岸からかなり奥まで砂の畑が続いています。砂地農業は肥料や水がどんどんしみこんでしまうので、通常よりずっと多く施さなくてはならないという苦労があるそうです。また、風が吹くと作物の上に砂がつもってしまうそうです。そういえば、あちこちの畑のかたわらには井戸小屋が建っていて、給水のエンジンの音が聞こえていました。つるつとした肌のかわいいサツマイモをおみやげにいただきました。

民宿の奥さんが、「午後から梨の収穫をするけど、梨もぎ体験をしてみない」と声をかけてくれましたが、諸般の事情ですぐ帰らなければならず、あきらめました。次回はぜひ！

3年間作業に参加しましたが、松林の成長を楽しみにこれからもできるだけ参加しようと思います。みなさんもいかがですか。



第5回 運営懇談会をおこないました



2009年からはじまった運営懇談会。今年は11月30日(土)に東京で、12月7日(土)に大阪でおこないました。東京会場は15名、大阪会場は23名が参加し、それぞれ活発に議論が交わ

されました。東京会場では高見事務局長による大同の報告のあと、主に宇久須プロジェクトの今後の展開について、被災地支援などについて意見を交わしました。大阪会場でも高見事務局長の大同の報告のあと、主に GEN の今後の方向性について話し合わせ、後継の問題、大同のプロジェクト、自然と親しむ会などの国内活動などさまざまな意見が交わされました。参加したかたの貴重な意見を今後の活動に生かしていきたいと思っています。

DVD「黄色い大地に広がる緑」を見て感じたこと

GENの映像記録「黄色い大地に広がる緑」を見た高校生から感想がよせられました。一部をご紹介します。

- 中国と日本でこういう活動をしていることは知らなかった。20年も続いているのはすごいことだと思った。日本からのボランティアもホームステイとかがしてなかよくなるうとしてすごいと思いました。もっとみんなでいろんなことを協力し合う関係になつたらいいなと思いました。
- ボランティアやツアーでこのプロ

- ジェクトが体験できるようなのですが、少しでも役には立ちたいなあとありました。このプロジェクトが成功して、緑の大地になるようにと思いました。
- 乾燥した土地に木を植えるのってすごく大変なんだと思いました。アンズの花がとてもきれいでした。中国の人と日本の人が協力しあっていてよかったです。

- 農業や木を育てていくことは生きていくうえで大切だが、水が少ない土地ではとても大変だと思った。
- また、中国はとてもいろいろな歴史を持っていると思った。中心から離れた場所はとても過酷だと思ったし、中心から離れた場所は差があるなと思った。

報告

はじめての無煙炭化器体験

池田 剛志 (GEN 会員)

12月15日、GEN自然と親しむ会『無煙炭化器で炭を作ろう』をおこない、16名が参加しました。炭焼き日和の冬の晴れた空の下、無煙炭化器を使った炭作りとバーベキューを楽しみました。

武田尾の駅から川原まで歩きながら枯れ木を拾い集めました。川原に着いて荷物を置き、もう一度みんなで薪拾いをしました。家から車で運んできた薪もあったので、かなりの量の木が集まりました。



無煙炭化器の上に網をのせてバーベキュー

はじめて見る無煙炭化器は小さく見えたので、こんな小さなものでこのたぐさんの木を燃やすにはかなりの時間がかかるだろうと思いつつ着火するのを見ていました。

新聞紙やたき付けの紙から細い木に火が付いたと見るやどンドン木をくべるので、炭化器の上は一気に山盛りになりました。

乾燥していない木も多く含まれていたため、煙が出始め、無煙のはずが煙には無縁でいられませんでした。

ところが、煙が引き始めると炎が徐々に大きくなり、やがて炭化器が火を噴いているかのような大きな火柱になりました。やがて炎がおさまると見事に

炭ができていました。炭のできるはやさには驚きました。

こんな具合ではやく炭ができたので、お昼にはちょっと早い時間でしたが、最初にできた炭を使ってバーベキューが始まりました。網の上にはパンや缶詰、バナナまでのっていて、何とも楽しいバーベキューでした。

午後の炭焼きでは、缶を使ってサザンカの花や木の葉・柿の実などを炭化させたり、焼き芋をしたり楽しいおまけも付きました。たき火を楽しみながら2回燃やし終わると大量の消し炭ができていました。

無煙炭化器は小さくて単純な形に見えるけれど、なかなかの優れものであることに気づかされました。

いますぐできるGENへの協力

■会員の輪をひろげよう！

| | |
|-------------------|----------|
| 緑の地球ネットワーク会費 (年額) | |
| 一般会員 | 12,000円 |
| 家族会員 (同居の家族2人目から) | 6,000円 |
| 学生会員 | 3,000円 |
| ジュニア会員 (中学生以下) | 1,000円 |
| 団体会員 | 12,000円 |
| 賛助会員 | 100,000円 |

※会費は会報購読料を含んでいます。

■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料2,000円。

■緑化基金、運営カンパともむ

金額は自由です。GENへの寄付は、寄付控除の対象となります。また、緑化基金、運営カンパの別を問わない用途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

*緑化基金の20%は事務管理費になります。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円 (送料別途。5セット以上送料無料)

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

* * * * *

【GENへの寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは国税庁長官

に認定された認定NPO法人です。(期限は2014年5月31日まで)。

GENへの寄付は、所得控除あるいは税額控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業(法人)からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円をひいた金額です。

また、大阪市民のかたは市民税控除を受けることができます。くわしくはGENまでお問い合わせください。



アンズ栽培で村が豊かに～渾源県呉城村の報告～

高見 邦雄 (GEN 事務局長)



大同市渾源県呉城村のアンズ畑

呉城村では主としてナッツに加工し、自分たちでも販売しています。

私たちが呉城村との協力をはじめたのは1999年です。私たちの協力は毎年、少しずつです



中庭に積みあげられた杏核

いい年にはこうやってアンズは多くの収入をもたらしますが、問題もあります。アンズはサクラと同じように、毎日の気温を積算して、それが一定温度に達すると開花します。このところの暖冬つづきで、開花時期がだんだん早まっています。つぼみが固いうちは寒さに強いのですが、つぼみが膨らんだり、開花したあとに寒波がくると、蕾や幼果が凍って落ちてしまいます。零下2度には耐えますが、零下4度になると被害がでるそうです。

開花は4月20日前後で、そのまま暖かくなれば問題ないのですが、5月になってから雪が降ることもあり、ほとんど収入がなかった年もありました。2008年、BS朝日がこの村を取材して番組「よみがえれ! 緑の大地」を制作した年がまさにそれで、ハッピーエンドを狙っていたのに、そうはなりません。開花時期の遅い品種への接ぎ木による更新なども検討しているそうです。

会報発送 ボランティア求む

会報『緑の地球』の発送作業のボランティアを募集しています。

奇数月の中旬に朝10時から午後2時ごろまで、GEN事務所でおこなっています。作業内容は会報の三つ折り、封筒詰めなどのかんたんな作業です。

お手伝いできるかたはGEN事務局までご連絡ください。

が、村では独自に拡大し、これまでに300ha、25万本を超えました。

2004年7月、国連環境計画親善大使として歌手の加藤登紀子さんがこの村を訪れたとき、ちょうどアンズの収穫期でした。しかも大豊作! 運のいい人はこうなんです、たった1度の訪問でも絶好のタイミングになる。高見は毎年通っているのに、収穫期に訪れたのはそのときだけです。

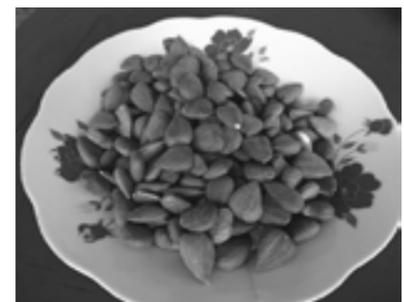
村のリーダーが加藤さんに紹介しました。「以前の雑穀栽培では10aあたり150元にしかならなかったけど、アンズに切り換えたことで1500元にもなった。アンズのおかげで毎年、大学生を送り出せるようになった」「それはみな日本のみなさんの協力のおかげ。アンズを植えるのを応援してくれただけでなく、小学校付属果樹園とすることで、教育の大切さをアピールしてくれたんだ」「振り返って、貧乏は怖くない。慣れっこだ。本当に怖いのは、貧乏だからといって諦めていたことだ。貧乏だから勉強してもしかたがないと」。

昨年の9月、大阪市RR厚生会の人たちと呉城村を訪れました。大豊作だったそうです。王迎才書記の家の中庭に大きく膨らんだ袋が小山のように積んでありました。中味は杏核(殻つきの杏仁)で、そこに40t、村全体では800tほどになり、アンズの収入だけで400万円になるとのことでした。これで3年、豊作がつづいたそうです。

昨年の10月、日本大使館経済部の萩尾俊宏書記官が大同のプロジェクトを視察しました。送られてきた写真にびっくりしました。呉城村のアンズが燃えるように紅葉しているのです。この会報がカラーでないのがほんとに残念です。

呉城村のアンズ栽培は1994年から始まりました。取り組むにあたっては、河北省のアンズ栽培の先進地をいくつも交替で見学し、事前の学習をしたそうです。アンズは大きく2種類に分かれます。果肉を食べるものと、種子のなかの杏仁を目的とした仁用杏です。呉城郷では後者を選びました。果実は小さく、種が大きいので、果肉はやせています。しかし数はたくさんなり、杏仁が大きく、一次加工が簡単です。

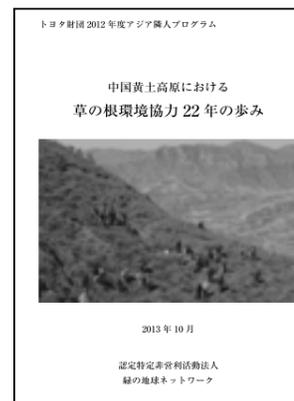
杏仁はナッツとして食べたり、ジュースに加工するほか、漢方薬の重要な原料ですし、良質の保湿剤として化粧品に使われます。国際的な市場が成立しており、価格も安定しています。



呉城村で加工された杏仁

報告書 『中国黄土高原における草の根環境協力 22年の歩み』を作りました

このたび、トヨタ財団2012年度アジア隣人プログラムの助成をうけて22年の活動をまとめた報告書を作成しました。会員、協力者の方がたに送ったところ、たくさんの反響が寄せられました。メッセージをおよせいただいたみなさん、どうもありがとうございました。今回はその一部をご紹介します。



よみがえる当時のおもい 新妻 健治 (イオングループ労働組合連合会 会長)

報告書のなかの95年に高見さんに同行させていただいたときのわたしのコメントを読んだら、あの時のことがいきこみ上げてきました。

本当に感じて考えさせていただいた10日間において、私に信念(おもい)の木を植えていただいたのだなあと振り返りました。ありがとうございました。

その後わたしも「日中労働運動の現状と課題」、「大衆運動の必要性と可能性」と問題提起ができるようになりました。国を超えて共有すべき課題を思索したとき、自らの問題を深く、深く理解できることに気づかされました。わたしたちにとっては、「イオンに働

く仲間」と言ったときには、中国で働く仲間は当たりまえに含まれる時代になりました。国境をこえた民衆の協力は深まる一方なのに、残念なことが多く心痛いことです。

今後も活動の継続を 島本 明憲 (東京都練馬区)

22年は長くも、また短くも感ぜられたことと思います。植林という気の遠くなる仕事にかかわる実情と、中国・中国人という重要問題について改めて新ためて考えさせられています。

そして表紙の写真ひとつからも大兄

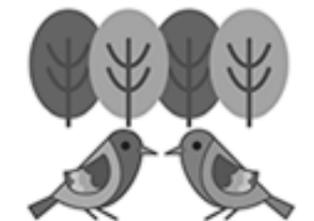
との会話が思い出されます。

頭で考えたかぎりでは、植林を示す写真は大勢が動いているものが実態をより表現するように思いますが、他方では技術者が菌根菌を見つめているのも良いような気がします。

もはや植林を超えた中国との大きな付き合いが佳境にあると思いますが、植林は離さないでください。ますますのご活躍とご健勝を祈っております。

報告書は PDFでもどうぞ

報告書『中国黄土高原における草の根協力22年の歩み』はPDFでも読むことができます。GENのホームページ <http://homepage3.nifty.com/gentree> からリンクしていますのでどうぞご覧ください。



参加者募集

2014 黄土高原ワーキングツアー

春は植樹の季節、今年は黄土高原の村へ木を植える旅にでませんか。木を植えるだけでなく、村でご飯をごちそうになったり、子どもたちと遊んだり、たくさんの貴重な体験ができるワーキングツアーです。ぜひご参加ください。

○日程：2014年4月5日(土)～11日(金)6泊7日

○訪問地：中国山西省大同市(北京経由)

○費用：176,000円(学生割引30,000円あり)(国際航空運賃、中国国内の交通費/食費/宿泊費を含む。GEN年会費(一般=12,000円、学生=3,000円)、燃油特別付加運賃、空港使用料、旅券取得

費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含まない)※関西空港発着 東京発着便利用希望のかた、北京で合流希望のかたはご相談ください。

○定員：30名程度

○最少催行人員：12名

○申込み期限：2月19日(定員に達し次第締め切ります)

○参加ご希望のかたはGEN事務所までご連絡ください。資料は(株)マイチケットから発送します。



報告

現状を知る大切さ

下村 委津子 (NPO 法人 環境市民 理事)

11月27日、ひと・まち交流館京都にて『森に降りそそいだセシウムゆくえ』と題し、京都大学大学院の岡田直紀さんにお話しいただきました。22名が参加しました。質問も飛び交い、原発事故があたえた影響に高い関心がよせられていました。

福島県の森林面積は県土の70%以上を占めており、その豊かな森の恵みを享受する暮らしがもともと福島では営まれていた。しかし、福島第一原発の爆発事故により大量の放射性物質が放出され、多様な生きものの命を育む森林にも放射性物質は降りそそいだ。

事故から2年10ヶ月近くたった今、森の中の放射性物質はどうなっているのか、京都大学大学院農学研究科の岡田直紀准教授が調査方法からその結果までを詳しく教えて下さった。

森に降りそそいだ放射性物質は葉や枝に吸着・附着し、その多くが雨によって洗い流され土壌にしみ込んでいることは容易に想像がついていたが、樹木が土壌からセシウムを吸い上げていることもはっきりわかった。

また、土壌に蓄積されたセシウムの

流出については、放射能により森林の手入れが十分にできないことで山が荒廃し、土壌(土砂)の崩壊による流出の危険性があるとの話だった。森で育つ植物や木の実・土中の虫を食べ育つ生きものへの影響が気になる。いずれにしても、このような調査結果によって現状を知るといことは重要だ。研究者には調査結果からプラスとマイナスの予測を公表していただくとともに、そのデータをわたしたちがどのように読み解けばいいのか、使えるのかを知る機会をぜひつくりたい。

残念ながら日本では専門家が発信した情報と市民活動がつながっていないこともまだ多い。研究者とNGO/NPOとの協働が今後ますます重要になるのではないだろうか。

参加者募集

GEN 自然と親しむ会

里山の成り立ちを見に行こう

日本中で里山の放置が問題になっているなか、能勢妙見山付近には現在でも利用されている貴重な里山があります。

今回は森林総合研究所の大住克博さんの案内で里山を歩きます。人と自然とのつき合いかたやその成り立ちを見にいきませんか。

○日時：2014年1月26日(日)10時～15時ごろ

○集合：能勢電鉄「妙見口」駅前に10時

○案内：大住克博さん(森林総合研究所関西支所)

○参加費：700円(保険料を含む)

○持ち物：飲み物、弁当、雨具、歩きやすい服装・靴

○定員：30名

○問合せ・申込み：1月22日までにGEN事務局まで

参加者募集

「ポスト改革開放」時代の中国 — 習近平・李克強政権はどう動く —

○日時：2月26日(水)18時30分～20時30分

○講師：加藤千洋さん(同志社大学大学院教授、元朝日新聞編集委員)

○場所：大阪市立総合生涯学習センター第1研修室(大阪駅前第2ビル5階 JR「大阪」駅、「北新地」駅、各線「梅田」駅)

○参加費：700円(学生300円)

○問合せ・申込み：GEN事務局までご連絡ください。

加藤千洋さんは朝日新聞の北京特派員、アジア総局長、中国総局長として長年中国・アジアとかかわり、朝日新聞編集委員、テレビ朝日『報道ステーション』のコメンテーターとしても活躍しました。今回は豊富な取材経験をもとに、『ポスト改革開放』時代の中国についてお話しいただきます。

2年目をむかえた習近平体制。貧困と格差、汚職腐敗、環境問題など高度成長のひずみ、ゆがみがいよいよ顕在化してきた中国。成長路線の維持か、革命重視か、路線対立も見え隠れします。

3月上旬の全人代の開幕直前というタイミングで、習体制が直面する課題についてせまります。

GEN 関東ランチ月例会のご案内

毎回、土曜日の15時～18時ごろ、立教大学池袋キャンパス5号館1階第1・2会議室で関東ランチの月例会をおこなっています。参加費無料、事前申し込み不要です。GEN会員以外のかたもご参加いただけます。月例会のあとに懇談会をおこないます。

◆1月25日(土)IVUSA(国際学生ボランティア協会)企画の「お祭りカンファランス」について企画をすすめている学生にお話をうかがいます。

場所：立教大学池袋キャンパス12号館2階会議室※いつもと場所が異なります。ご注意ください。

◆2月22日(土)IVUSA+立教大学ESD研究所 お祭りカンファランス当日月例会はカンファランスに合流します。

◆3月は休会

黄土高原史話<66>

トラはトラでも北の虎

谷口 義介 (GEN 会員)

立教大学の上山信教授に『トラが語る中国史—エコロジカル・ヒストリーの可能性』(山川出版社、2002年)という本あり。同じGENの会員だからヨイショするわけではないけれど、好著といってよいでしょう。ただし、そこでは南方のトラが主人公。というわけで今回は、北部の虎をめぐる人間の側にウエイトを置いて。

いうまでもなく、虎という字はトラの形をかたどったもの。殷代の甲骨文にその形で出てきます。許慎『説文解字』五・上に「山獣の君」、王劭『風俗通』祀典に「百獣の長」というごとく、アジアでは最強の猛獣(日本には弱いトラもおります)。

「虎の尾を履む」(『易』履)、「虎の威を仮る」(『戦国策』楚策)、「虎を山林に放つ」(『三国志』「蜀書」引く『零陵先賢伝』)という成句の英訳が、tigerでなくlionを当てているのは、虎がアジアの原産で、ヨーロッパではなじみが薄いからか。

それはともかく、強い虎にあやかりたいと(?)、殷代には「虎方」と名乗る国があり、西周の「虎侯」はその子孫。これとは別に、王に近侍する精鋭部隊を「虎賁」といい、殷を伐つ周の武王は「虎賁三百人」で中核を形成(『尚書』牧誓)。勇猛の侍臣を「虎臣」といい(『詩経』「魯頌」泮水)、曹操最強のボディ・ガード許褚の異名は「虎癡」、その配下を「虎士」と称した(『三国志』許褚伝)。

猛獣なら飼って見物したいというのも、怖いもの見たさの人の常。殷・周

本の紹介

『カビ・キノコが語る地球の歴史 菌類・植物と生態系の進化』(小川眞著/築地書館/2,800円+税)

森林総合研究所土壌微生物研究室長を務め、GEN顧問で専門家として何度も大同に足をはこんでいただいている小川眞さんの新著のご紹介です。

の凶象標識(青銅器に刻まれた絵画的な図像)に虎形を用いるものがあるから、古く虎の飼養にかかわった部族がいたのかも。秦のとき咸陽の西に周囲35歩の「虎園」が作られ、前漢の武帝は長安城建章宮の西に「虎園」を設けて虎を闘わせ、その管理に当る役人もいた(『史記』張釈之伝)。

そして、この虎園、実は北魏の平城(大同)にも置かれていたのです。

北魏に仕えた酈道元(469?~527)の地理書『水経注』巻13に、如渾水(御河)はまた南して分れて二水と為る。一水は西して南に出でて屈れ、北苑の中に入り、諸々の池沼を経て、また南して虎園を遡る。東魏[北魏]の太平真君五年、これを成りて以て虎を牢む。

つまり、第3代太武帝の太平真君5年(444)に虎園を設けたとあるが、『魏書』太宗紀によると、第2代明元帝の永興4年(412)

春二月癸未、虎園に登りて虎を射る。南平公・長孫嵩等に布帛を賜ふこと各々差あり。

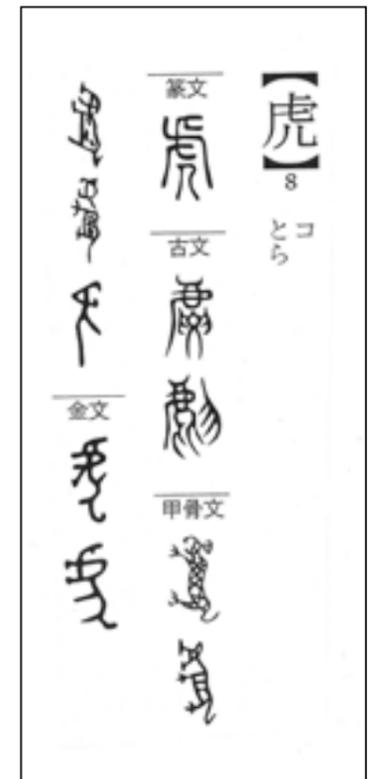
とみえ、虎園設置の年代については両書で食い違いがある。

それはともかく、上掲『水経注』の後文に、晩秋の月、帝は「虎士」らに命じて「猛獣」を倒させたとあり、前引の「太宗紀」でも下賜品に差をつけたというから、軍事訓練を兼ねた行事において武技が競われたのだろう。

ところが太和2年(478)、第6代孝文帝と馮太后が百官をつれて虎園に臨んださい、逃げ出した虎が御座近く

まで迫った。幸い太后の何番目かの愛人王叡なる者が武器をとって防いだので事無きを得たが(『魏書』巻93「恩倖」)、さぞかし肝を冷やしたことでしよう。

太和6年(482)3月、虎園に行幸した孝文帝は、詔を発して虎狩りを禁止。生命の危険が伴ううえ、虎を献上する地方政府の財政負担もバカにならなかったからだ(『魏書』高祖紀上)。虎園自体の廃止時期については記録がないが、虎の進貢を止めてから、その自然死を待って、虎園もなくなったと思われる。『水経注』の後文によると、「魏に捍虎園あり」と絵にまで描かれていたように、虎狩りは鮮卑拓跋の伝統だったのですが……。



植物の進化に果たした役割など、大胆な仮説で地球の歴史をカビ・キノコと植物のかかわりから解き明かします。





**第17回六甲奨学金基金のための
古本市**

六甲奨学金は、兵庫県下の留学生・就学生への奨学金や日本語ボランティア教室を支えています。古本市は基金の募金活動の一環です。

○受付期間：3月1日～3月31日まで

○送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

【注意】

- ・汚れのひどいものは不可。
- ・辞書、新しい本大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピューター解説書、文学全集、百科事典などは不可。
- ・CDも集めます。(ビデオ、TV番組を録画したDVDやコピーCDは不可。)

○送り先・問合せ先：神戸学生青年センター古本市係 (〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 tel.078-851-2760)

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

fax.078-821-5878 e-mail: info@ksyc.jp
URL http://ksyc.jp/

法人国際協力機構 (JICA) 国内事業部市民参加推進課 (担当: 大井・杉本) tel. 03-5226-8789 e-mail: tatpp@jica.go.jp
まで所属、氏名、役職、住所、電話、e-mailアドレス、出席を希望するJICA拠点名 (TV会議出席をご希望の場合) をメールでお送りください。

**NGOとJICAの連携が
もたらしたもの
草の根技術協力事業10年の成果と学び**

NGOとJICAが連携してプロジェクトを実施する「草の根技術協力事業」の開始から10年。事例をもとに成果と学びを議論し、今後のNGO-JICA連携のあるべき姿について考えます。

○日時：2014年1月22日 (水) 18時30分～21時

○場所：JICA市ヶ谷ビル2階国際会議場 (JICA各国内/在外拠点とTV会議接続予定)

○定員：150名 (先着順)

○参加費：無料

○主催：NGO-JICA協議会草の根技術協力事業10年の振り返り分科会

○申込み：1月10日までに独立行政

訂正とお詫び

前号 (No.154) の「情報ひろばいろんなかたち」に掲載した田中農園のポンカンの記事に誤りがありましたので以下のとおり訂正します。

注文先のメールアドレス

正：tanakan3@cronos.ocn.ne.jp

誤：tanakan@quolia.ne.jp

訂正してお詫び申し上げます。

また、同じく前号の協力者のお名前に記載漏れがありましたのでこの場に掲載します (敬称略)。